

## 播磨町立播磨西小学校

校長 中西 治

### 夢かがやき とともに学びをきりひろく 心豊かな西っ子の育成

コロナ禍の中でも、子どもたち一人一人が、毎日楽しく登校できる学校、笑顔あふれる西小学校づくりを目指しました。保護者をはじめ地域の皆様方のご支援とご協力、本当にありがとうございました。

#### 【取り組みの成果と課題】

(1) 職員の授業力の向上と子どもたちの学びの保障  
(国語科の研究の継承と発展)

国語科の授業研究を中心にしながら、そこで培った成果を他教科へも発展させることで、教師の授業力の向上と子どもたちの学習に取り組む意欲と学力の向上を目指しました。また、幼稚園での遊びから小学校での学びへとつながる移行を図る県指定の幼小連携研究の取り組みも始めました。隣接の西幼稚園を中心に、町内の他の幼稚園やこども園、保育園とも連携を深めています。

(2) 安全・安心に向けた取り組み

校舎や校門の大改修工事に伴う通学路の一部変更や廊下・階段の使用制限、運動場の一部使用制限による校内事故防止、それに加えて新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた取り組みの徹底を図りました。今後とも、新型コロナウイルス対策をはじめ、様々な災害を想定した訓練を行うことで子どもたちの安全と安心を最大限保障します。

(3) 笑顔あふれる学校に向けた取り組み

「元気な声と笑顔で挨拶をする」という当たり前のことができにくい中ですが、マスク着用時でも、気持ちの通じ合う優しい挨拶とアイコンタクトで、笑顔あふれる学校にしていきます。



## 播磨町立蓮池小学校

校長 藤原 由香

### 「人間力」豊かな子どもたちの育成

本校では、主体的に学びに向かい、「論理的思考力」「創造力」を伸ばすとともに、自他ともに認め合い、尊重し合える「人間力」豊かな子どもたちの育成に取り組んでいます。社会情勢が不安定な今だからこそ、自ら考え行動できることに重点をおき、教育活動を進めてまいりました。

#### 【取り組みの成果と課題】

(1) 自ら考え表現する力の育成

今年度は、自ら考え表現することを目標としました。自分で考えられる環境を整え、進んで課題を解決しようとする姿勢を大切に、自分の考えを表現できる子どもの育成に取り組んでいます。

(2) 対話を軸とした学習過程の工夫

学習の中での対話を重視し、自分の考えを発信するとともに、お互いの意見を交流させ、様々な考えに触れることをとおして、それぞれの学びを深める取り組みを行いました。

(3) 全職員で取り組む個に応じた指導

校内での研修等を実施し、全職員が共通理解を図り、指導・支援の体制を充実させることに取り組まれました。また、個々の支援についての検討を継続的にを行い、児童が安心して過ごせる学校づくりに努めました。



## 播磨町立播磨小学校

校長 水野 洋子

### 知・徳・体の調和のとれた児童の育成 ～子どもたち一人ひとりの幸せを願って～

本校では、「子どもたち一人ひとりの幸せを願って」を教育目標の根底にかかげ、まだまだコロナ禍が続く日々、感染症予防対策を講じながら、「今、できること」「今、しなければならないこと」を中心に、安心・安全で信頼される学校、笑顔あふれる学校をめざし、教育活動を進めてまいりました。

目の前の子どもを大切に、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の子ども像を常にめざし、誠意をもって取り組みを続けています。

#### 【取り組みの成果と課題】

(1) 学習環境・学習指導の充実

- ・自分も友だちも尊重でき、自尊感情を高める取り組みを継続し、落ち着いた学べる環境づくりに努めました。
- ・一人ひとりの児童理解に努め、個々に応じた支援体制に取り組むとともに、家庭や関係機関との連携を密に図りました。
- ・算数科を中心に授業研究を行い、わかる授業づくりの工夫を図りながら学校全体で授業力の向上に取り組み、子どもたちの「学ぶ力の育成」に取り組みました。

(2) 児童会活動の充実

- ・「心一つに かがやく笑顔 はりまっ子」をスローガンに、アイデアわくわくワークが中心となって、みんなが気持ちよく過ごすことのできる播磨小づくりに取り組みました。
- ・全校生が一同に集まる集会活動はできていませんが、リモートや放送などを上手に活用し、子どもたちの自主的な活動を推進することができました。

(3) 情報発信の充実

学校HPや配布物の充実を図り、コロナ禍での情報発信の工夫を図りました。



## 播磨町立播磨南中学校

校長 濱本 宏

### 社会的自立を目指し、未来に向かって 主体的に生きる力の育成 ～南中の“あ・ひ・る”を大切に～

『南中の“あ・ひ・る”を大切に育てていこう』の取り組みをはじめ9年が経過しました。

#### 【取り組みの成果と課題】

(1) 学習指導の充実

日々落ち着いた雰囲気の中で、生徒は学習活動に取り組んでいます。タブレット等ICT機器の導入により、より一層生徒が主体的に取り組めるような授業研究を行ってきました。定期テスト前には、自主的な学習会を実施し、課題をやりきるための支援も行いました。

(2) 学校行事・特別活動・生徒会活動

今年度もコロナ禍の影響をうけて、計画していた行事の規模縮小や延期、中止などがありました。2学期に無観客での体育大会や学年別の合唱コンクールを行いました。1年生は「わくわくオーケストラ」に参加しました。2年生は「トライやるウィーク」を地域の方々のご協力の下、11月に5日間無事に実施することができました。そして延期していた3年生の「修学旅行」も、奈良・三重・滋賀県方面に行き先を変更して11月に無事に実施することができました。生徒会活動としては、本年度のスローガン『自分を高め、南中を高めろ』のもと、全校生が毎日楽しく学校生活を送れるように取り組んできました。今後もそれぞれの個性を認め合い、共に高め合えるような学級・学年・学校づくりを継続していきたく思います。



## 播磨町立播磨西幼稚園

園長 藤原かおる

遊びの充実を図り、自己発揮しながら  
互いを認め合える子に

今年度も、感染症拡大防止の中で、例年とは違う行事のあり方となりましたが、保育を工夫しながら進めてきました。子どもたちも感染対策をしながら生活しようとする姿が見られます。コロナ禍の中で交流する難しさもありましたが、遊びや人との関わりの中で、相手の思い、よさを伝えたり、互いに受け入れあう姿を認めたりしていくことで、互いの存在を尊重できるように取り組んできました。今後も、心豊かで意欲的に取り組むことのできる幼児の育成を目指し、努力してまいります。

## 【取り組みの成果と課題】

- (1) 幼児の思いを大切に、表情や動きから気持ちや考えを読み取り、丁寧に関わることで幼児と教師の信頼関係が深まっています。
- (2) 幼児の興味・関心に沿った環境を整えることで、友達と遊びを共有し、試行錯誤を繰り返しながら、やってみようという意欲的な気持ちが育ってきています。
- (3) 異年齢児や小学生、中学生との関わりを通して、思いやりや憧れの気持ちが育ってきました。
- (4) あきらめずに何度も繰り返して挑戦する姿を認め、自信につなげていくことで、頑張る気持ちが育ってきています。
- (5) 園内研修や小学校との合同研修、特別支援研修を通して、教師の資質向上を図り、保育の充実に努めました。



## 播磨町立蓮池幼稚園

園長 富山 智子

遊びの充実  
～環境の在り方を考える～

本園では、コロナ禍の状況をしっかりと受け入れながら、その中でも、今、幼児が経験していることがどんな学びにつながっているのか、学びにつながるために何が必要か、また、幼児が意欲的に遊びに取り組むとはどんな姿なのかを教師間で話し合い、日々の保育を振り返り、環境の再構成をしながら、遊びの充実をめざして取り組んできました。

## 【取り組みの成果と課題】

- (1) 一人一人の思いを探りながら、“やりたい”という思いが実現できるような環境構成に取り組んできました。遊びの中で自分の思いを実現する喜びを感じ、次への意欲や自信につながってきています。
- (2) 遊びの中で、自分の思いや考えを伝えたり相手の話を聞いたりする場や異年齢児の良さに気付ける場を意図して多くもつことで、思いを受け入れ合ったり刺激を受け合ったりして、互いに認め合える関係が築けるようになってきました。
- (3) その季節にしか経験できないことや幼児の興味・関心に沿って必要な環境を整えることで、めあてをもって取り組み、夢中で遊び込む姿が見られるようになってきました。
- (4) 遊びの中の学びが“幼児期の終わりまでに育ってほしい姿”にどう関連しているのかを意識し見直しをもって保育を進めることで、幼児に必要な教師の援助や環境の構成が見えてきました。
- (5) 幼小連携研修や特別支援研修など様々な研修を通して、教師としての専門性を磨き、保育の充実に努めました。



## 播磨町立播磨幼稚園

園長 久保 朋子

## 感じる・考える・伝え合う

本園では、子どもたちが自分のしたいことを自分で見付け、実体験を通していろいろなことを感じ、考え、伝え合うことを大切にしながら子どもたちと関わってきました。コロナ禍で、より人と関わることの大切さを感じた年でした。実際に体験する面白さや人と関わる楽しさを子どもたちが味わえるように、教師の援助や環境構成を考え、日々の保育に取り組んでまいりました。

## 【取り組みの成果と課題】

- (1) 実際に体験しながら、いろいろなことに気付いたり“面白い!”と感じたり、自分なりに試したりすることを繰り返すことで、“考える力”が育ってきました。
- (2) 友達の話を耳を傾けたり、互いの考えを伝え合ったりする場を大切にできたことで、自分から“伝えたい!!”という思いが育ってきています。
- (3) 子どもたちの遊びや生活が、どのように『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』につながっていくのかを意識しながら保育したり、記録を取ったりすることで、幼児の内面に寄り添うことができました。
- (4) コロナ禍で様々な人と関わる場は例年より少なかったことはありますが、友達や異年齢児、中学生など、人と関わることで親しみをもち、関わる楽しさを感じることができました。
- (5) 保育や特別支援教育に関する園内研修、保護者や地域の方からの声などを通して、教師自身が自分を振り返る場をもち、幼児理解を深める関わり方に活かしました。



## 播磨南小学校

校長 中島 誠

「夢」と「希望」を持ち、  
社会的自立を目指して学び合う  
心豊かでたくましい南っ子の育成

コロナ禍ではございましたが、子どもたちが充実した毎日過ごすことができるよう感染症対策と工夫を凝らし日々の学習活動、学校行事を行ってまいりました。保護者並びに地域の皆さまをはじめ、各種関係機関の皆さま、ご支援・ご協力ありがとうございました。

## 【取り組みの成果と課題】

- (1) 学習指導の充実
 

タブレット端末を積極的に活用し、各教科の学習がより充実したものになるよう努めました。タブレットドリルを使った個別学習やタイピングの練習をはじめとして、検索サイトを活用し調べ学習を行い、文章作成ソフトやプレゼンソフトを使って一人一人が考えをまとめて発表するなど、様々な場面でICTを効果的に活用する力がついてきています。また、本年度より播磨町の指定を受け、算数科の研究を進めています。根拠をもとに自分の考えがしっかりと説明できる子、友だちの意見と自分の考えを比べながら考えを深める子が増えてきました。
- (2) 児童会活動と学校行事の工夫
 

「笑顔の花さく南っ子」をスローガンに、みんなが気持ちよく生活できる学校にしようと、児童会が中心となって「あいさつ運動」や「あったか言葉キャンペーン」などの活動に自主的に取り組みました。また、陸前高田市の中学校への支援活動も継続して行っています。さらに、コロナ禍ではありましたが、運動会やミュージックデイ、自然学校、修学旅行など学校行事を実施し、子どもたちは互いの成長を確かめ合うことができました。

